

令和四年度全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

知事賞

最優秀賞

中央審査

優秀賞(国土交通大臣賞)

「廃油石けんづくりを通して」

高知県宿毛市愛媛県南宇和郡愛南町小中学校組合立篠山中学校

二年

きのした  
木下

そら

「廃油石けんを作って篠川を守ろう。」

私たちは、篠川の水質調査を通して、篠川の美しさを守るために、行動にうつしました。

私たちの学校は、総合的な学習の時間に、篠川の水質調査を毎年行っています。上流、中流、下流の三カ所で、水の温度を測ったり、パックテストをしたり、水生生物を調べたりして、篠川の水の美しさを確認しています。テストの時、私は篠川が汚れていないか少し心配になります。ここ二年間の篠川の水質調査の結果は、どこも水質階級Ⅰで、きれいな水が流れています。

そんな昨年の水質調査で、サワガニを発見しました。サワガニはきれいな水にしか住めない水生生物です。その中に、一匹だけお腹に四〜五ミリメートルの子ガニを抱えたサワガニを発見しました。私は、卵からかえったばかりの貴重な瞬間だと思いました。どれくらい子ガニがいるのか数えようと思って、ピンセットでつまんで外しました。すると、母ガニから離れた子ガニが、するすると母ガニのところに戻ってしまいました。調べてみると、実は、サワガニは卵からかえると、ある程度の大きさになるまで母ガニのお腹で育つことが分かりました。これには私たちも先生も驚きました。私たちが見つけた小さな子ガニたちが、篠川で元気に育つために、少しでも篠川の美しさを守りたいと思いました。しかし、こんなにきれいな水も環境学習会で生活排水が流れていることを知りました。その中でも油が流れると、元の美しさに戻るまで長い時間かかると言われました。

そこで私たちが考えた方法が、家庭用排水で少しでも川を汚さない

ように、油を石けんに変える方法です。全校で話し合い、地域の人たちに呼びかけて、家庭の使用済み油を集めました。地域の人たちが協力してくださり、たくさんの油が集まりました。先輩は、深浦婦人会の方にお願ひして、廃油石けんの作り方を教わってきました。婦人会の方たちは、地元の海を守るために、廃油石けんづくりを続けています。作った廃油石けんを販売しているのを聞いて、私たちも文化祭で販売しようと考えました。

教わった石けん作りに、米のとぎ汁を発酵させて使うというコツがあります。ご飯を炊くときに、米を洗って、何気なくとぎ汁を流します。しかし、米のとぎ汁も汚れた水だということに気付かされました。今までどれぐらい流して、川を汚していたのだろうと考えてしまいました。篠川に流した米のとぎ汁は最終的に海に流れます。婦人会の方は、上流の私たちに「汚れた水を流すな」とか言いません。何も言わず、自分たちにできることをしています。私たちはもう少し周りを気にかけなくてはいけない、知らなくてはいけないと思いました。米のとぎ汁は発酵させると、良い菌が増え、油汚れがよく落ち、消臭効果があるそうです。石けん作りにもびったりなので、私たちが作る石けんも発酵した米のとぎ汁を入れました。目標の二百個を作り、買ってもらった人が自分でも廃油石けんが作れるように作り方の説明書も入れました。

文化祭が終わって、バザーで一つでも多く買ってもらおうと呼びかけました。地域の人や来てくださった人がたくさん買ってくれました。私たちの活動に協力してくれていることがうれしかったです。一緒に篠川をきれいにしてくれる仲間だと思いました。

今回の廃油石けん作りは、海に流れる油を篠川から防ぎきっかけになりました。しかし、篠川の美しきを守るだけでは、水の美しきは守れません。川と海は繋がっています。サワガニが多く生息するこの篠川を守ることにあります。これからも、水質調査を続け、水を汚さない方法を一つでも知り、文化祭など多くの機会地域の方に呼びかけていきます。